

今日のトピック インドネシアの金融政策は予想外の2会合連続利下げ（2017年9月） 債券市場への資金流入とルピアの底堅い推移が見込まれる

ポイント1 2会合連続の利下げ 前回に続き市場の予想外

- インドネシア銀行（中央銀行、以下中銀）は22日の金融政策決定会合で、政策金利（7日物リバースレポ金利）を0.25%引き下げ、4.25%としました。利下げは2会合連続です。市場予想（ブルームバーグ集計）では、27名中20名が据え置きを予想しており、前回会合に続き予想外の利下げとなりました。

ポイント2 経済は堅調に推移 物価は中銀目標レンジ内で推移

- インドネシア経済は堅調に推移しています。17年4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+5.01%でした。中銀は経済見通しについて、17年は同+5.0~5.4%、18年は同+5.1~5.5%と、今後成長が加速すると見えています。
- また、物価を見ると、8月の消費者物価指数は前年同月比+3.82%と、中銀の目標レンジ（4%±1%）に収まって推移しています。中銀は、当面目標レンジ内での推移が続くと見えています。

今後の展開

債券市場への資金流入と ルピアの底堅い推移が見込まれる

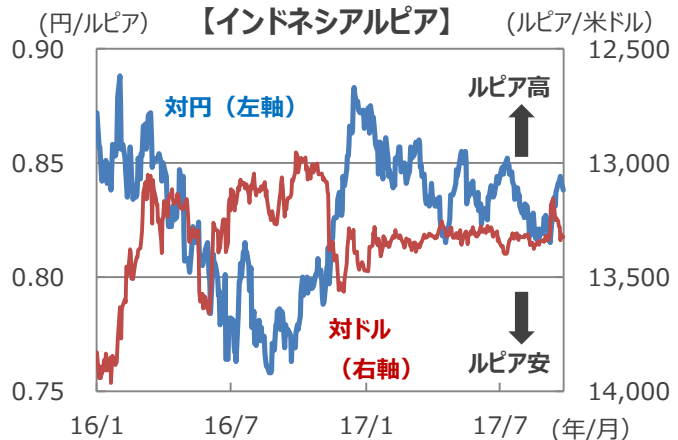
- 中銀は、「政策金利水準はインフレ見通しなどと整合的」と述べていることもあり、政策金利は当面据え置かれると見られます。ただし、今後インフレ率が下振れるようであれば、追加の利下げも考えられます。
- 中銀は、海外から債券市場に資金が流入しており、通貨ルピアの安定に貢献したと述べています。インドネシア債券市場への資金流入ペースは加速しており、10年国債利回りは低下傾向にあります。今後も堅調な経済成長と物価の安定などを背景に、インドネシア債券市場への資金流入は続きそうです。また、インドネシアルピアも底堅い推移が見込まれます。

ここも
チェック! 2017年9月 8日 アジア経済と株式市場の見通し
2017年8月31日 アジア通貨の動向（2017年8月）

【政策金利と10年国債利回り】



(注) データは2016年9月1日~2017年9月25日。(年/月)
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注1) データは2016年1月1日~2017年9月25日。
(注2) 対円は100ルピア単位、対ドルは逆目盛。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。